



プレナリーセッションでは、JSTとJICAの事業が紹介され、アジアモンスーン地域を中心とした、気候変動と水問題に関する国際共同研究の進展と展望が議論された。(参加者：)

## ステークホルダーL

[JICA/JST]

**SATREPS：開発途上国と共に地球規模課題に挑む国際共同研究～気候変動と水に関わる成果と今後の展望～**



日本の優れた科学技術とODAの連携によって成立した「SATREPS」という技術協力プログラムによる開発途上国のニーズに基づいた地球規模課題の解決の取り組みが紹介されました。その後、開発途上国の研究者と共に進めた研究開発とその社会実装例が発表され、課題解決に向けた今後の方向性について活発な議論が行われました。

## ステークホルダーS

[寒地土木研究所]

**積雪寒冷地における気候変動が災害・環境に及ぼす影響の把握と適応策に関する寒地土木研究所の取り組み**



気候変動が積雪寒冷地の水災害や雪氷災害に与える影響について、研究所の取り組みと行政との連携が発表され、適応策が議論されました。

## ステークホルダーS

[北海道大学]

**北海道大学における水・気候に関する社会課題解決への取り組み**



気候変動が水と気候に及ぼす影響について、大学全体の取り組みが紹介され、地域および国際的な連携の重要性が議論されました。

## セッション26

**極端現象の予測可能性と予測豪雨や洪水、渇水などの極端現象の予測可能性に関する話題提供がされた (参加者：50名)**



## セッション12

**都市・沿岸環境における水と気候都市部の下水道網や温暖化に伴う海面上昇と地下水への影響に関する研究成果が発表された。(参加者：40名)**

## セッション16

**大気陸面相互作用のプロセス理解と予測改善に向けた新しいモニタリング、モデリング、ベンチマーキング 全球スケールでの水・エネルギー循環モデルに関する研究が発表された。(参加者：70名)**

## セッション27

**気候の早期警報と災害リスク管理 降水予測及び洪水予測を組み合わせた早期予報システムの構築や社会活動に与える影響に関して議論された。(参加者：60名)**

## セッション17

**極端な気候:記録と観測**

過去の極端現象の観測および記録の復元、監視が不十分な流域や極端な気象条件に焦点を当てた多様な水文・気象モニタリングが紹介された。(参加者：80名)

## セッション15

**スケール横断的な水、エネルギー、炭素プロセスのモニタリングとモデリング 陸海面と大気循環の相互作用に関する研究が発表された。(参加者：45名)**



## セッション1

**地下水資源、持続可能性、モデリング 洪水リスク軽減策の評価、機械学習を用いた地下水シミュレーションの高速化などが議論された。(参加者：30名)**



## ブース出展

会場2Fホワイエにおいては、協賛企業から10ブースが展示された。国内外の多くの参加者が訪れ、最新の技術やGEWEXに関連する取り組みが紹介された。